

# 変形性膝関節症



松阪市マスコットキャラクター  
「ちゃちゃも」

## <病気について>

作成：医事課

へんけいせいしつかんせつしょう

変形性膝関節症は、その名のとおりひざの関節が変形する病気です。ひざの軟骨なんこつがすり減り、やがては骨の変形もまねいた状態が変形性膝関節症です。

その原因はさまざまですが、中でももっとも大きなものはかれい加齢です。

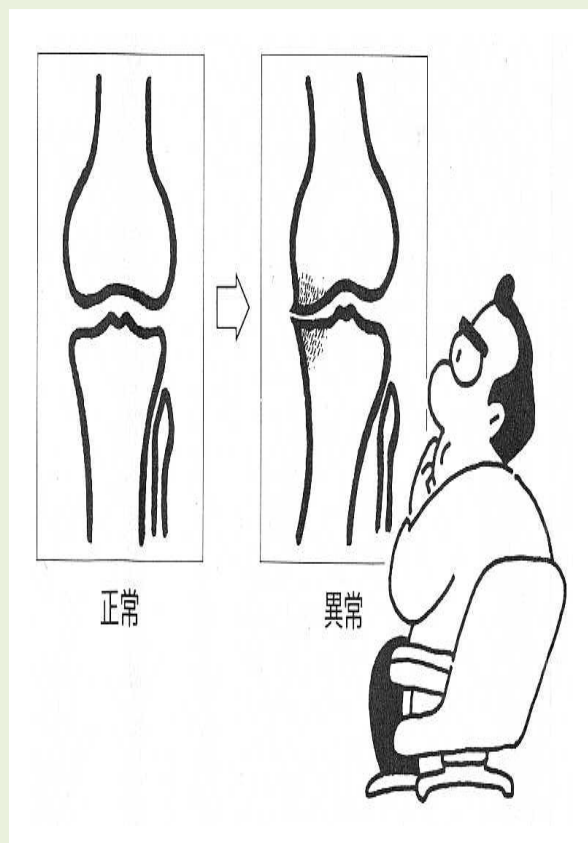
40～50 歳代ころからひざのこわばりや軽い痛みを感じるようになり、60 歳代ころには、歩きはじめや階段を下りる際に痛みが出現、正座ができにくくなります。さらに進行すると、慢性的な痛みやひざの骨の変形をきたす場合もあります。

## <症状>

変形性膝関節症は骨同士がこすれにより、強い痛みを感じます。そのため、正座や階段の上り下りがつらくなってしまふことがあります。

また、脚の変形がひどい人になると、ガリガリと擦れたような音がするようになります。

さらに骨の変形がひどくなると、外へ出ることなど社会的活動が出来なくなり、見た目にも変形が目立つようになります。



## <検査>

### ○画像検査

#### <X線>

骨の強度、変形などがわかります。関節軟骨<sup>かんせつなんこつ</sup>や半月板<sup>はんげつばん</sup>、関節包<sup>かんせつほう</sup>、靭帯<sup>じんたい</sup>などは映りません。

骨の隙間<sup>すきま</sup>である関節裂隙<sup>かんせつれつげき</sup>の広さがわかりやすいので立ったまま撮ることもあります。

#### <MRI>

磁気を用いた画像検査です。関節軟骨、半月板、靭帯、ひざにたまった水なども見えます。関節軟骨や半月板の損傷がX線だけではわかりにくい場合、手術の検討時などに用いられます。

### ○血液検査

慢性関節リウマチや痛風などの全身疾患との判別などが必要な時に行います。

### ○関節貯留液の検査

ひざに水がたまっているときは関節液を注射器で抜いて調べることもあります。慢性関節リウマチ、痛風、半月板や靭帯の損傷、などの判断や、細菌感染、関節破壊があるかなどを調べます。

## <治療法>

この変形性膝関節症の治療法には、「保存療法」と「手術療法」の2つの方法が存在します。

「保存療法」では、薬物投与、装具装着、リハビリテーションなどが行われます。これらの保存療法で効果が出ない場合には、手術療法が選択されることとなります。この疾患には、生活習慣が起因しているケースが多く見られます。そのため、適度な運動や食生活の改善、減量などが効果があると考えられています。また、筋力を維持することで、膝への負担を減らすことも効果的と考えられています。これにより、進行を遅らせる効果もあります。

「手術療法」では、関節鏡と呼ばれる棒状の内視鏡を2~3箇所の切開した穴から膝内部に挿入して、関節軟骨や半月板の状態が詳細に評価し、外科的治療を同時に行ったりする小規模のものがああります。また、膝関節の骨そのものを人工関節に置き換えます、あるいは金属プレートやクサビ型の骨を埋め込み、膝の変形を矯正<sup>きょうせい</sup>する大規模のもの、大きく分けて二種類が存在します。

## <入院費～概算～>

人工関節置換術（約1ヶ月）	1割・2割負担の場合	44,400円（上限）
	3割負担の場合	600,000円

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

## <平成28年度当院データ>

平均在院日数 9.5日、人工関節置換術件数 3件

※パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、

医事課までお気軽にお尋ね下さい。

松阪市民病院